

おひさまだより

発行 麻生区クールアース推進委員会 2023年3月

麻生区地域課題対応事業

47
Vol.



麻生区役所太陽光発電設備設置 20周年記念イベント

気候危機の中 2030年に向けてできること

2023年2月5日(日)は好天に恵まれ、発足20周年のイベントを区役所会場でオンラインを併用して開催した。会場44人、オンライン11人、当会関係者13人の合計68人の参加となった。

冒頭に当会の児嶋委員長より世界と日本の温暖化打開策を基調講演に期待する旨の挨拶があり、続けて区役所地域振興課の雨宮課長からは20年間の活動継続への祝辞とパネルディスカッションへの期待感が表明された。

第Ⅰ部 基調講演

環境エネルギー政策研究所所長 飯田哲也さん

気候危機にロシアのウクライナ侵攻に伴うエネルギー危機が加わり厳しい状況にある。産業革命前比で+1.5°Cの平均気温上昇に抑制する国際的な目標に比し残り+0.4°Cであり、CO₂の急激な削減は無理に見えるが、世界的には可能と認識されている。世界の科学者は「2050年までに電力だけでなくエネルギー全てを再生可能エネルギーにすることが最も低コストでかつ実現できる」と考えている。

その中心となる太陽光、風力と蓄電池は、産業構造の創造的破壊を起こそうとしている。急激な電気自動車への変化は、世界では化石車の規制よりも速いペースで起きている。この急速な変化は、気候変動やエネルギー対策には良いが、経済と環境の調和という意味では影響が大きそうだ。

太陽光・風力の電力を温熱・輸送・産業分野へ展開するセクター・カップリングの考え方が注目される。太陽光・風力は安くCO₂も出さないが、唯一の難点は自然変動である。南オーストラリアで停電防止用に設置された大型蓄電池が引き金になり、巨大蓄電池の導入が加速しており、蓄電池がゲームチェンジャーになる。太陽光・風力・蓄電池は、継続的なコスト低下によって再生可能エネルギー100%を加速し、地域経済の自立を促し、美しいデザインで景観調和を図る等、市民や地域に密着した形で作ることが望ましい。

Contents

- ・「気候危機の中 2030年に向けてできること」
- ・「気候危機 みんなが知れば必ず変わる！」
- ・あさおの未来を描く絵画展
- ・麻生市民館・図書館屋上に太陽光発電完成！
- ・地域に出ていく活動を行いました
- ・2022年度活動報告、編集後記

- 1
- 2
- 3
- 3
- 3
- 4
- 4

サプライチェーンの中国偏重は現時点では仕方ないが、新疆ウイグル問題や資源リサイクルも含め持続可能なサプライチェーンの確立に取り組む必要がある。

太陽光・風力の導入にはゾーニング（導入可否の色分け）が重要だが、

遅ればせながら改正地球温暖化対策推進法で日本も取り組み始めた。除外・配慮地域に農地が入っているのが少し危うい。太陽光は農地と建築物・住宅、風力は洋上が中心になる。環境省の推進し始めた「脱炭素先行地域」の取り組みにより、いろいろな知見がこれから伝わってくるだろう。送電線の地域独占構造は変わっていないので、太陽光発電によって抜本的に変えるチャンスではないかと思う。麻生区そして川崎市がこの20年余り確かに歩んでこられたものを更に前に進めていただければと思う。



飯田哲也さん

第Ⅱ部 パネルディスカッション

区内で環境活動を展開する市民団体と行政による討論を、当会の林委員がコーディネートし、最初に参加者の活動紹介をお願いした。

①石井よし子さん（里山フォーラム in 麻生）

“里地里山の環境と文化を、次世代に”をテーマに活動している。万福寺人参の復活やナラ枯れの課題などと包括的に向き合っている。知る・学ぶことから、地球温暖化や生物多様性の問題に立ち向かいたい。

②今井雄也さん（一般社団法人サステナブルマップ）

市民団体として活動開始し、区内の子どもたちを集めて、地域の資産とSDGsのゴールを結び付けた「麻生区サステナブルマップ」にまとめた。「醤油の貸し借りをする文化の復活」を目指している。

③中山周治さん（野性発見舎 NORACo.）

「野良」という言葉が好きだ。野があり畑があり多様性の掛け算があって野菜が生まれる。循環によって、食料をいかに届け続けるか。知恵を出し合って生き延び、小さな農業を広めたい。文化の発信にも取り組んでいる。

④永田眞一さん（川崎地域エネルギー市民協議会）

現在5団体で協議会を構成。再生可能エネルギーに関する条例の陳情を川崎市に行った。屋根貸し方式により麻生市民館・図書館の屋上に太陽光発電設備を設置したので、多くの人に見て頂きたい。

⑤飛田拓也さん（川崎市環境局脱炭素戦略推進室）

令和4年度末を目指し条例改正に取組中。パブリックコメントでは1864件と非常に多くのご意見を頂いた。公共施設への太陽光発電設置も推進しており、麻生区役所への増設可能性を令和5年度に調査予定。

2030年に向けた活動をどう考えるか？

石井さん 高齢化の中、子どもたちの体験学習が活発になってきているのは心強いことだと思う。

中山さん 食料自給率が5割を切るし、家畜への飼料を考えるともっと低い。「循環」を教える大切さがある。

今井さん 「教えないこと」を大事にしている。子どもたちは「地球温暖化」は教科書で習うだけだし、漠然とした恐怖には興味を示さない。教科書にない企業の取組みやナラ枯れを見るなど、自分事にする工夫が必要。

永田さん 自然破壊したくない共通認識の中で、何ができるか。ソーラーシェアリング（農業＋発電）は増やすべき。これまで強度的に設置できなかった太陽光も新しい技術で付けられる時代が近いので、太陽光を自家消費で使う姿が一番の目標だ。

飛田さん 環境問題は行政だけでは解決できない。義務でなく必要性から太陽光を載せられる形が必要。市民や事業者からの行政への訴えを恐れずに受け止めることが重要と思う。

「連携」についてどう考えるか？

石井さん 当事者になりえないが当事者同士になったような気持ちでつながることが必要で、目と目が合ってわかり合える気持ちから連携が生まれる。

中山さん 楽しいだけでは続けられない。苦楽を共にすることを覚悟で、どうwin-winの関係を作れるか。

今井さん 麻生区には600近くの市民団体がある。子どもたちの視点に立って説明できるように、SDGsの認証を受けた団体をマップに載せている。協働できるイベントがあれば連携できると思う。



永田さん

天草で太陽光発電設置をした時、近くの小学校長から、設備を子どもたちに見せて説明してほしいと希望され、それが毎年続くことになった。目を輝かせて質問する子どもたちに何が必要かを気づかされた。

飛田さん 環境問題の意識は個人差が大きいと思う。差がある中で、1つの目標にどう向かっていくか。連携が大事だが、行政はみんなを進めていく所が重要なので、市民団体には突き抜けた成功事例を期待したい。

■コーディネーターのまとめ

地域で様々な団体が連携すること、集まった方々に興味をもってもらうことがすごく重要。全然関心を持たない人たちが「えっ？」と気がつく瞬間を目指したい。テーマ探しやノウハウの共有で今後連携をしていきたい。

■飯田哲也さんの講評

川崎市（と東京都）の太陽光義務付けの条例改正の取組は、これまでの諸活動から積み重ねてきた先進的な取組として今後の広がりにつながる可能性がある。進化は積み重なり加速するので、目に見えた瞬間にどっと広がるのがこれから起こり、豊かで多様性を持った分厚い麻生区の市民活動がますます豊かに広がっていくことを期待している。また時々時間を見つけて来ることができれば良いと思う。

■参加者アンケートより

基調講演は、具体的かつ理論的で大変参考になった、日本の対策の遅れと再エネの可能性を再認識した、との意見とともに、内容量に見合う時間が欲しかったという指摘もあった。また、パネルディスカッションについては、地元の団体の考えや取り組みを知ることができてとても興味深かったとの多数の意見とともに、参加して意見を述べたかったという希望があった。

■個人的には、地球温暖化問題はいかに若い人たちに参加いただくかを日々課題と感じていたが、何か打開策を見出せそうな感触を受けた。今日のイベントが、そんな連携のきっかけになれば、とてもうれしいと思う。（森脇厚一郎記）

※なお、時間の関係で割愛した基調講演の質疑応答としてアンケートに寄せられたご質問への回答は、3月末に区役所ホームページに掲載する予定です。

麻生区役所太陽光発電設備設置
20周年記念イベント 10/29(土)
気候危機 みんなが知れば必ず変わる!
環境活動家 谷口たかひさ氏

谷口たかひささんは国連総会でスピーチを行うなど、国際的な環境活動家です。「お話会」を2019年から行い、今回が1269回目でした。

冒頭、世界で起きる大規模な自然災害の現状を紹介し、私たちが温暖化に無関心でいるうちに、人が住む場所や資源、食料の奪い合いが起き、平和が失われる危険な状況にあり、すでに気候危機に無関係でいられる人はいない事を指摘しました。

谷口さんは、ドイツで環境問題を訴えるデモに参加した中学生に感銘を受け、子どもの明るい未来のため、自分たちが気候危機を止めることができる最後の世代、だから「自分にできることはすべてやった!」と胸を張って言えるように「お話会」をはじめたとの事。

気候危機を変えるため、自分に何が出来るか、自分の頭で考えて自分で動くことが大切だといいます。プラスチックやごみを減らす、再エネの電気に切り替える、肉を減らすなど、小さい事すらやらない人がほとんどだから「1人の100歩より100人の1歩」が大切。「変えられるものは“今”と“自分”」だから自



分の選択や行動を変える事が大切。政治に無関心なら政治が自分に無関心になる、だから投票に行くこと。日本のメディアリテラシーが低いのは自分で考えて行動しないため。日本の教育では義務は教えるが、権利については教えないため、自己肯定感が育ちにくい。楽しさや共感で人は動く、人口の3.5%の人が参加するとそのムーブメントは成功する。「みんなが知れば必ず変わる」と語る谷口さんのお話は多岐にわたりました。

2組の家族参加や20代の若者の参加もあり、参加者からは「心に残る言葉が多数あった。価値観や生き方にも関係する話だった。」「家族にも大切な人にも自分事に考えてもらえるように行動していきたい。」「環境問題について関心があるが、歯がゆい感情があったが、変えられるのは今と自分というキーワードからその後のお話で心が軽くなった。」などの感想がありました。(松下彰子記)



麻生区区制40周年記念事業「あさおの未来を描く絵画展」
麻生区クールアース推進委員会賞は、狩野乃々葉さんが受賞

区制40周年事業の絵画コンクールで市立岡上小学校4年の狩野乃々葉さんが応募した『いのちおどりがやく街』を、麻生区クールアース推進委員会賞に選び、2022年10月9日(日)第40回あさお区民まつりで表彰しました。副賞はソーラーエコハウスおよび風力発電ワークキットでした。縦長のキャンパスには、木々の緑と青い空を背景に頭上には真っ赤な太陽!ど真ん中の塔の周りに、人々や動物、鳥、チョウなどの昆虫達が共に躍動する未来の街が描かれていた。絵とダンスの好きな彼女にして描けたステキな絵を有難う!!こんな未来が実現するよう様々なことにチャレンジして下さい。期待しています。(児嶋脩記)

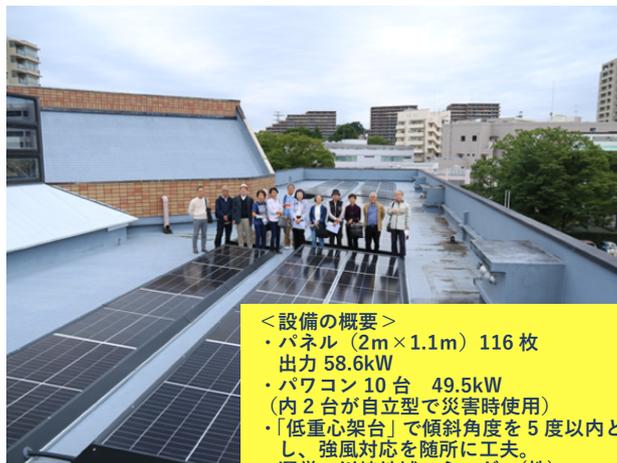


麻生市民館・図書館屋上に「太陽光発電施設」完成!

川崎市の市有施設屋根貸し第2号となる「市民出資の太陽光発電所」が、川崎地域エネルギー市民協議会により数年越しの準備の末に完成し、2022年9月から発電を開始しました。当会も心から応援していた事業です。

10月12日の見学会に当会からも3名が参加し、話を伺いました。区制20周年で設置された5.5kW太陽光パネルの約10倍の発電量ながら、小型化し性能は格段と向上しています。向かいの区役所を眺めながら、「まだまだ沢山空いている区役所屋上にも区制40周年で最新パネルが増設されたらいいなー!」と心に熱く感じました。

(天野悦子記)



- <設備の概要>
- ・パネル(2m×1.1m)116枚
出力58.6kW
 - ・パワコン10台49.5kW
(内2台が自立型で災害時使用)
 - ・「低重心架台」で傾斜角度を5度以内とし、強風対応を随所に工夫。
 - ・運営:川崎地域エネルギー(株)
 - ・設置費用:約1000万円/私募債使用

地域に出ていく活動を行いました

寺子屋あさお・市民活動団体発表会・出前講座(多摩市/東百合丘)

4

2022年10月15日(土)麻生小学校で行われている「寺子屋あさお」で、ペットボトルで作る風力発電の工作を行い、児童19名が参加しました。また、2023年1月8日(日)多摩市永山公民館(27名参加)、2月18日(土)東百合丘町会会館(26名参加)では一般向け出前講座を行い、2月12日(日)には麻生市民交流館やまゆりで行われた「市民活動団体発表会」(15名参加)にも参加しました。地球温暖化問題にどのように立ち向かっていくのか、多くの方々と一緒に考える機会となりました。



麻生区民まつり

子育てフェスタ・あさお区民まつり

2022年秋は、コロナ禍を脱したとは言えないものの、感染対策をしながら、区内のイベントが再開されました。

9月17日(土)あさお子育てフェスタでは「おひさまと遊ぼう」で出展、10月9日(日)あさお区民まつりではブース出展でソーラーおもちゃなどの展示・説明を行いました。どちらの日もあいにくの曇天で、薄日が差すとほんの少し動くおもちゃでしたが、それでも子どもたちは興味津々。今後はどんな天候でもアピールできるよう、自然エネルギーで蓄電した電力を利用する工夫が必要です。(林恵美記)

麻生区クールアース推進委員会2022年度の活動報告

2022年	8月11日	2022夏休み環境イベント「ソーラーエコハウスを作ろう！」
	9月17日	あさお子育てフェスタ出展
	10月9日	あさお区民まつり出展・麻生の未来を描く絵画展表彰式
	10月15日	出前講座：寺子屋あさお「ペットボトルで風力発電機を作ろう」
	10月29日	麻生区役所太陽光発電設備設置20周年記念イベント「気候危機 みんなが知れば必ず変わる！～地球を守ろう～」講師：谷口たかひさ氏(「地球を守ろう」代表)
2023年	1月8日	出前講座：多摩市永山公民館
	2月5日	麻生区役所太陽光発電設備設置20周年記念イベント「気候危機の中 2030年に向けてできること」飯田哲也氏基調講演とパネルディスカッション
	2月12日	市民活動団体発表会参加：主催 あさお市民活動サポートセンター
	2月18日	出前講座：東百合丘町会会館
	3月18日	2023里山フォーラム in 麻生での出展：委員会紹介とポスター展示

編集 後記

今、世界の人々が心から願っているのは、ウクライナの戦争が終わることだろう。戦闘のニュースを聞いたたびに心が痛む。この戦争でロシアは歴史上初めてエネルギーを武器として使った(世界経済フォーラム年次総会にてロベルト・ボッカ氏の発言から)。そして私は、平和であるためには自国で再生可能エネルギーを作るしかないと確信した。

20年前に産声を上げた当委員会は20歳。2月5日に20周年記念イベントが開催され、新たな歴史を作った。20年前の設置記念イベントに講演された飯田哲也さんは、再度講師として登壇して、「世界の科学

者は2050年までに再生可能エネルギーが最も低コストでかつ実現できるものと考えている」と語ったのが印象に残った。

第2部のパネルディスカッションでは、麻生区的环境を守る人々(団体)が登場。それぞれの日常的な活動を浮き彫りにしながら、他の活動にも思いを寄せることや気候危機を意識することの必要性を共有した。麻生区の市民団体の数は600という。多様で自立した市民の活動は、時には行政との協働により、脱炭素に向けて豊かな社会を作っていく先駆けとなるだろう。共に歩んでいこう。(飯田和子記)

発行：麻生区クールアース推進委員会(委員長 児嶋脩)

編集担当：飯田和子、児嶋脩、小林知江

問合せ先：事務局 林恵美

Tel/Fax：044-299-6460 E-mail：emi814@sound.ocn.ne.jp

発行日：2023年3月20日

